

# 湖南省農業再生協議会水田フル活用ビジョン

## 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

湖南省では全耕地面積の90%以上を水田が占め、水稻栽培中心の地域となっている。また、耕作面積が1ha未満の兼業農家が大半を占めており、年々高齢化が進み離農者も増加している。

一方、ほ場整備が進んでいる地域においては、集落営農組織等を中心に麦・大豆の二毛作をブロックローテーションで行うなど水田の高度利用に取り組んでいる。しかし、野洲川以南地域や下田地域では、ほ場環境等による麦・大豆の生産性、品質面で課題がある。また、近年では飼料用米の作付が増加しているが収量が低い状況であり課題となっている。

湖南省を代表する伝統野菜「下田なす」については、農家の高齢化による作付面積の減少がみられ、栽培技術の継承などが早急の課題となっている。

## 2 作物ごとの取組方針

主食用米の作付品種や環境こだわり米の拡大、産地交付金を有効に活用した園芸作物や伝統野菜の生産拡大を促進し、ブランド力を高め、契約栽培や個人販売により高収益な生産経営を促進する。また、農地集積や経営規模に応じた栽培方法や作期分散等によりコスト低減を図る。

### (1) 主食用米

- ・前年の需要動向や集荷業者等の意向に即した米の生産の実施
- ・作付品種の検討、適期播種、水管理等の営農指導に基づく適正管理
- ・畦畔草刈等の害虫発生の予防と適正な防除の徹底
- ・県認証「環境こだわり農産物」の作付拡大
- ・堆肥施用による土づくり、有機栽培の実施
- ・契約栽培や個人販売による安定収益
- ・市民産業交流促進施設（ここびあ）開業に伴い出荷量を増加させるため、作付を推進

### (2) 非主食用米

#### ア 飼料用米

- ・畜産農家と連携した作付の推進
- ・畑作物の作付ができない地域での作物として推進

#### イ 米粉用米

- ・製パン業者等実需者との連携による計画的な作付を推進する

#### ウ WCS用稲

- ・需要に即した生産数量の確保

#### エ 加工用米

- ・複数年契約等による実需者との連携による計画的な作付の推進

#### オ 備蓄米

- ・需要に即した生産数量の確保

### (3) 麦、大豆、飼料作物

直接支払交付金を活用し、可能な地域において作付け拡大し、ブロックローテーションによ

る団地化や担い手への農地集積を図り、作付面積の拡大を促進する。

- ・適期播種の励行と適正な肥培管理
- ・適正な追肥によるタンパク含量の向上
- ・排水対策及び集落ぐるみによる防除の徹底
- ・生産収量の確保、品質の均一化

#### (4) そば、なたね

- ・産地交付金を活用し、実需者との契約に基づいた作付の推進

#### (5) 野菜

- ・市民産業交流促進施設開業に伴って、産地交付金を活用した作物転換・作付拡大を促進し、安定した生産供給の確保
- ・安心、安全な農産物の生産
- ・伝統野菜の作付拡大、栽培技術の向上及び後継者育成と伝統野菜の復刻

#### (6) 不作付地の解消

- ・ほ場環境整備、担い手不足の解消
- ・非主食用米や麦、大豆、野菜などの作付を促進

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 28 年度の作付面積 (ha)	平成 29 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	363.2	380.0	391.0
飼料用米	11.9	12.0	11.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0
WCS 用稲	0.0	0.0	0.2
加工用米	0.6	0.6	0.5
備蓄米	0.0	0.0	0.0
麦	84.3	85.0	90.0
大豆	81.8	85.0	90.0
飼料作物	0.0	0.0	0.1
そば	0.0	0.0	0.3
なたね	0.0	0.0	0.0
その他地域振興作物	12.3	15.0	19.3
野菜（下田なす以外）	5.0	7.0	12.0
下田なす・弥平 とうがらし・さ といも	1.0	1.1	2.5
果樹	1.1	1.2	1.5
花卉・花木	0.2	0.0	0.5
地力増進	4.7	5.0	1.8
景観形成	0.3	0.7	1.0